The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	Tend と「傾く」の意味をめぐる一考察
Author(s)	田岡, 育恵
Citation	Osaka Literary Review. 2001, 40, p. 101-113
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/25209
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

Tend と「傾く」の意味をめぐる一考察

田　岡　育　恵

1. はじめに

動詞「傾く」と名詞「傾向」は「傾」の字を共有し、動詞とその関連する名詞とみなされる。英語の tend と tendency も同様の関係にあると言える。しかしながら、「傾向」と tendency は意味において相応しているが、「傾く」と tend は必ずしもそうとは言えないのではないだろうか。「傾く」には下向きのニュアンスがあり、そこから比喩的にもマイナスニュアンスで用いられるのに対して、tend の方向に下向きニュアンスはないようである。「傾く」に相応するのは寧ろ、decline であり、decline には「傾く」と同様に Down is Bad のメタファーが関与し、比喩的にもマイナスの意味で使われる。これに対し、「傾向」には下向きやマイナスニュアンスが結びついているわけではなく、tendency に対応する。「傾向がある」という表現においては、tend＋to 不定詞の場合と同様に Unsettled is Up のメタファーが関わっていると考える。本稿では、「傾く」と tend を比較し、その意味について考察したいと思う。

2. 「傾く」、「向く」、「傾向」

2.1. tend は「傾く」ではない

上で tend と「傾く」は必ずしも対応しないと述べた。この章ではその点について考察していきたい。

先ず、英和辞書での tend の訳語が「傾く」ではなく「向く」になっていることを指摘したい。

(1) tend *vi.* 1.（道、道路などが）（…の方へ）向く、向かう、至る、行く、2.（…の）傾向がある、…しがちである、3.（…に）資する、貢献する、（…するのに）役立つ　―『研究社新英和大辞典』第５版、例文は省略

(2) tend 自動詞　1.〈人・物・事が〉…する傾向がある、…しがちである、[…への] 傾向がある、2.〈道・道路などが〉[…の方向に] 向かう、進む；〈物・事が〉[ある状態・結果に]向かう、至る、[…する] 結果となる　―『大修館ジーニアス英和辞典』第２版、用法と例文は省略

上の辞書の訳例で「傾向がある」の類については後述するとして、tend そのものの意味としては「向く、向かう、至る」が与えられていて「傾く」は用いられていないのである。「傾く」にはマイナスニュアンスがある。そのことについて次節で述べたい。

2.2. 「傾く」はマイナスニュアンス

先ず、『三省堂新明解国語辞典』（第４版）から「傾く」の定義を見よう。

(3) ①斜めになる「家運が ―［＝衰える］・日が ―［＝西に沈もうとする］」②［中道から外れ］特定のものの方に引きつけられて、ずるずると動いて行く。「…の考え方に―・賛成に ―・気持ちが ―［＝次第に、その気になる・好きになる］」

上の説明で、「家運が傾く」で「衰える」というのは語自体がマイナスの意味であることを表しているし、「中道から外れて、ずるずると」という説明にもマイナスニュアンスが窺える。「店が傾く・家が傾く・国が傾く」で状況の悪化を表すことに日常的言語使用として異議はないだろう。『大辞泉』（小学館）では、「傾く」の意味として「勢いが衰える・ふるわなくなって存

在が危うくなる」を挙げている。また、次のように「傾」の字を用いて良くない意味を表す熟語がある。

(4) 傾国（国の存在を危うくする意、国政の妨げとなる美人）
傾斜（広義では、公正な立場が失われて特殊な傾向を持つことや個人的に何かにばかり心を寄せることを指す）
傾倒（その人（もの）のよさにすっかり心を奪われ、それ以外に価値あるものは無いと思う状態になること）—以上、『三省堂新明解国語辞典』第4版

(5) 傾家（破産する）、傾危（国が傾きあやうくなる）、傾巧（たくみにへつらう）—『新字源』（角川書店）

辞書以外からの「傾く」のマイナスニュアンスの説明として森田（1996）の説明を挙げておこう。

(6)「傾く」が「片向く」で“一方向にのみ向いていく”の意。結果、安定状態から逸れて倒れそうになる。事の中庸を得ぬ一方の傾向に走る比喩的用法も「片＋向く」から容易に理解がつく。

次に、「傾き」、「傾く」の実例を挙げておきたい。

(7) しかし、私は、年をとってから、急に修道院の生活に入りたいと思うことがあるようになった。これはむしろ凡庸な心の傾きなのだと思う。— 曽野綾子『中年以後』

(8) その人が元気で運命が盛大である時には近づかないでいい、と私は思っている。しかし、病気になったり、運命が傾いたり、一人になってしまった時には、「介入」もいいことがある。— 曽野綾子『それぞれの山頂物語』

(7) では、「凡庸な」という修飾語から「傾き」は少なくともプラスニュアンスで用いられているのではないと考えられるし、(8) においては、文脈

の前後の対比で「運命が傾く」はマイナスの文脈で用いられていると言える。しかし、先に述べたように「運命が傾く」のような表現はそれ自体でマイナスの意味を持つのである。そして、後述するように「運命が傾く」に付与されるマイナスの意味については、Down is Bad のメタファーが関与している。但し、「傾」を用いた熟語で「傾聴」(=聞き漏らすまいとして熱心に聞くこと、cf.『三省堂新明解国語辞典』第4版) のようにプラスニュアンスのものもある。これらの場合、上下のメタファーが関係せず「そちらに伸びる」という、英語の tend に近い意味になっている。「傾聴」のような場合、「傾」本来のニュアンスが文脈で消されるものと考える。

最後に、「傾き」と「傾向」は共に「傾く」の関連名詞であるが、両者には違いがあるということに注意しておきたい。「心の傾き」は「心が傾く」の名詞表現で、一人の人の心の状態を表したものであるが、「傾向」はいくつかの (というか、かなり多くの) 事例の集積に基づいて用いられる表現であると言えるだろう。

2.3.「向く」はプラスニュアンスか

「傾く」に対して、「向く」はプラスの意味で用いられるということを表す用例および説明が辞書に見られる。

(9) 病気が快方に向かう、気が向く (=積極的にそうしようという気持ちになる)、運が向く (=良くなる)、人がその道・地域に入ってやっていけたりそのものが存立する十分な条件が備わっていたりして、あるいは長続きし、あるいは広く受け入れられる[女性に ― (=適した) 仕事・この絵は表紙には向かない ―『三省堂新明解国語辞典』第4版

また、「向上」という表現はあるが、「向下」という表現はない。「向上」には Up is Good, Down is Bad のメタファーが働いていると考えられる。

しかし、他方、「下向き（＝衰えてくること）」（cf.『三省堂新明解国語辞典』第４版）や「悪い方に向かっては大変だ」といった表現が用いられるように「向く」は必ずしも「上」、「良いこと」と結びつくわけではない。そもそも「向く」というのは、何かに積極的に臨む姿勢を表す表現であると言えるのではないだろうか。(9) に挙げたようなプラスの意味が定着した「向く」の用法があるということは、積極的であるという態度は（何に対してであるかは別だが）その態度自体はプラスニュアンスで捕らえられるからだと考える。それは、英語の positive に「プラス」という意味と「積極的な」という意味の両方があるということにも窺えるように思う。但し、「傾く」の場合と同様、「向く」本来のプラスニュアンスは「下向き」、「悪い方に向かう」のように対象自体がマイナスの場合は文脈で消されるものと考える。

2.4.「傾向」は中立的

『大辞泉』（小学館）で「傾向」を引くと次のように記されている。

(10) ① 物事の大勢や態度が特定の方向にかたむくこと、またはかたむきがちであること。② 思想的にある特定の方向にかたよること。特に左翼的思想にかたよること。

昔なら ② の意味は「傾向文学」のようにマイナスニュアンスを伴って用いられていたと思われるが、現代では ② の意味で用いられることは少なくなってきているのではないだろうか。したがって、ここでの「傾向」は ① の意味で考える。ここで、「家の傾向」、「世界の傾向」は「家が傾く」、「世界が傾く」とは全く意味が違うことに注意したい。「傾く」は衰退するというマイナスの意味を表すものであるが、「家の傾向」というのは最近、どのような家が増えてきているのかというような意味、「世界の傾向」は世界の国々がどのようなことをしようとしているのか、どのような状態になっているのかというような意味で、それがプラスかマイナスかはそれぞれの傾向の中身

によるのであって、「傾向」自体はプラス vs. マイナスについては中立的である。なお、「傾向」の場合、「傾」と「向」が結合してできている点も注目される。

3. tend と decline

3.1. tend は中立的

tend は (11) が示すようにプラスの内容とも共起し、(12) が示すようにマイナスの内容とも共起する。また (13) が示すように中立的な内容とも共起する。

(11) Oil shares are tending upward. (『大修館ジーニアス英和辞典』第2版), tend toward tax reform (『小学館プログレッシブ英和中辞典』第2版), measures tending to improve working conditions, Prices are tending downward (『研究社新英和大辞典』第5版)

(12) Idleness tends to poverty, He tends to boast (『大修館ジーニアス英和辞典』第2版), tend toward selfishness, Excessive drinking tends to produce liver disease (『研究社新編英和活用大辞典』第2版), Prices are tending upward (『研究社新英和大辞典』第5版)

(13) This road tends north (to the north, toward the coast) here. (『研究社新英和大辞典』第5版)

語源的にも tend の語源は to stretch, direct one's course を意味するラテン語から来ていて、元々、「下に行く」や「悪化する」という意味ではない。これに対して、後で述べるが、decline は to bend down, derivate from を意味するラテン語が語源である (cf.『研究社新英和大辞典』第5版)。

(12) のように tend がマイナスの文脈で使われていることは多いように

思うが、これは後で述べる tend to の婉曲効果と関係があるものと考える。

3.2.「傾く」は decline

Longman Dictionary of English Language and Culture (1992) で decline を引くと、次のような意味と用例が挙げられている。

(14) *to go from a better to a worse position, or from higher to lower; deteriorate;* His influence declined as he grew older / the government's declining popularity / Do you think standards of morality have declined in recent years?

『研究社新英和大辞典』(第5版) においても decline について次のような記述をしていて、マイナスの意味が定着している。

(15) 1. [… の方へ] 傾く、下を向く、垂れる　2.〈夕日が〉傾く (sink)、〈一生・一年・一日などが〉終わり (暮) に近づく　The day was fast declining (to its close)(日はずんずん傾いていた)、the declining day (傾く日、日暮れ)、one's declining years (晩年)　3.a.〈地位・勢力・人 (の健康) などが〉下り坂になる、衰微する、衰える、堕落 (退歩) する、減退する　one's declining fortune (衰運)、The country declined to a second-class power (その国は (衰微して) 二流国に転落した)　b. 卑しい (不道徳な) 行動に身を落とす、身を持ち崩す

「傾く」と decline の場合には、「下に向かう」が比喩的に「悪くなる」に結びついている。つまり Down is Bad のメタファーが働いているのである。このメタファーに関しては、山梨 (1995) は (16) のような上下の方向づけに基づく「良・悪」の比喩の例を出している。英語では、Lakoff and Johnson (1980) が方向のメタファーの一例として (17) のような例を出し

ている。

(16a) 製品の品質が上がっている／品質が下がっている

(16b) 商売は上向きになった／この商いは下降線をたどっている

(17) GOOD IS UP; BAD IS DOWN

Things are looking down. / We hit a peak last year, but it's been downhill ever since.

これらの例に限らず、「上」でプラスの意味を表し「下」でマイナスの意味を表すことは多い。ただし、常に「上」がプラスで「下」がマイナスということではない。次のように decline が用いられていながら好ましい状況を述べる場合がある。

(18a) Unemployment rate declined. —『小学館ランダムハウス英和大辞典』第2版

(18b) The decline in the number of strokes is probably connected with the decline in smoking. —『研究社新英和活用大辞典』第2版

(18c) Homicide cases are on the decline. — *ibid.*

(18) の各例において decline は「減少する」ことを表していて、「下がる」ことで減少を表すという More is Up; Less is Down のメタファーが関与している。しかし、これは先に挙げた (14) の「影響力が減少する」、「人気が下がる」の decline にも当てはまるものである。(14) と (18) の違いは、(14) は Down is Bad のメタファーが働いているのに対し、(18) ではこのメタファーは働いていない。つまり、(18) では「失業率」、「脳卒中の発生件数」、「殺人事件の件数」が対象だから減る方が良いことになる。むしろ、Down is Good である。Down is Good のメタファーは、他にも「血圧が上がる」、「物価が上がる」、「熱が上がる」のような場合、つまり「上がる」こ

とがマイナスになる事例があることからも想定できる。したがって「下」が必ずしも「悪」ではないが、「下」→「減少」→「悪化」の比喩がかなり多いので decline だけで「衰退」を表すことがあるのだろう。この節では、方向無指定の tend と異なり、decline は「下向き」であり、そこから比喩的にプラス vs. マイナスの意味を帯びるということを確認した。

4.「傾向がある」と tend＋to 不定詞の特性

4.1. Unsettled is Up のメタファーが関与

「傾向がある」というのは、まだ完全にそうだと言い切っているわけではない。そう言い切ることに近いということを示している。ここで、連想するのが Unsettled is Up のメタファーである。次のように、決定していないことを宙に浮いているように（つまり、上にあるように）表す表現がある。

(19a) pending

(19b) 判決が下る、一件落着、あの問題は宙ぶらりんになっている、一時棚上げされている

(19c) in the air（計画・考えなど）漠然として、未決定で、（人が）宙に迷って、とまどって The plan is quite (up) in the air.—『研究社新英和大辞典』第5版

(19d) float （住所・職業など）転々とする、（あてもなく）流浪する He floated through life (floated from place to place) 世をさすらい渡った（転々と居所を変えた）、（政党の政策・政党への支持・節操などが）無定見である、浮動する、ぐらぐらする、（考えが）ぐらつく、揺れる —*ibid.*

ここでのメタファーにも上下が関係しているが、この方向づけは、山梨(1988) に述べられているように、確実に得られた知識は物理的な事物と同様、不安定に宙に浮いているのではなく、ある安定した基盤の上に位置付け

られるという私たちの日常の経験に根拠を持つものである。「傾向がある」と tend＋to 不定詞という表現は、Unsettled is Up のメタファーを連想させ、一つの事実の断定という着地に向かっているというイメージを喚起させるように思う。但し、その事実が内容的にプラスかマイナスかということはここでは関係しない。

なお、tend to の to は次のような動名詞と不定詞との使い分けでよく指摘されているように、to 以下は未来志向である。

(20a) He stopped smoking.

(20b) He stopped to smoke.

ここから、tend to においては to 以下の Goal に視点が置かれている。これに対して、decline では元の常態から外れていくということで Source に視点があるように思う。

4.2. 傾向の判断には判断の根拠となる事例の集積が必要

「彼は早とちりの傾向がある」というのは、ある時に「彼が早とちりしようとしている」ということを言っているのではない。「彼は今までに何回か早とちりをした」ということである。「傾向がある」と tend＋to 不定詞は一回限りのことではなく何回か起こったことに対して用いられるのである。これに対して、よく似た表現でありながら be likely＋to 不定詞は、次のように一回限りのことにも使われる。

(21) It's likely to rain. 雨が降りそうだ。—河上(1992)

(22) The bus is likely to be late today because of the bad weather. —*ibid.*

(23) John's likely to go to beach tomorrow. —*NTC's American English Learners' Dictionary*

「傾向がある」と tend＋to 不定詞においては、ある事態がその一時点で偶然、成立する方向に向かっているというのではなく、何回かそういうことが既に起こっていて、そのように言い切る、あるいは一般化できる方向に向かっているということである。

4.3. tend＋to 不定詞の婉曲表現機能

「傾向がある」というのは事態の断定までは行っていないということで、穏やかな、また歯切れの悪い表現になると言えよう。『大修館ジーニアス英和辞典』（第2版）も、I tend to do には次のように（発言を和らげて）どうも…のようだ、とする用法があると述べている。

(24) I tend to think that's not good.　それはどうも良くないように思う。

この婉曲効果をねらってのことと思うが、次のように内容的には断定しているのと同じと取れるような場合にも tend to が用いられていることがある。次の (25)、(26) では、only や always があるのに tend to が用いられ、(27) では mitigators という語の定義の部分に tend to が用いられていることは注目に値すると思う。only と tend to は矛盾する。(25) は only がなければ「会話に出てくることが多い」という意味になるが、only があれば「会話にしか出てこない」という意味になる。それなのに「傾向がある」という表現を用いている。(26) でも always と tend to は矛盾する。(27) で which 以下は「望ましくない返事の力を弱める」という mitigators の定義を述べているのに tend to の使用はその定義を弱めてしまう。これらの場合、tend to は婉曲表現として用いられているのである。つまり、断定し得ることを敢えて「傾向がある」と、まだ断定には至っていないように表現することによって話者の遠慮が表わされるのである。

(25) Both of these types of "tag" sentences require verbal responses from a conversational partner, and, therefore, tend to occur only in conversation. — Michael L. Geis, *The Language of Conversation*

(26) Poor house guests always tend to treat you as if you were one of the Stepford Wives. — *COBUILD on CD-ROM*

(27) Dispreferred responses often contain dispreference "mitigators" which tend to lesson the force of a dispreferred response. — Michael L. Geis, *The Language of Conversation*

5. おわりに

以上の考察から次のようなことが言えると考える。

① tend は「傾く」ではない。

② 「傾く」はマイナスニュアンスである。但し、そのニュアンスは文脈でキャンセル可能である。

③ 「傾向」と「傾き」は同じではない。

④ 「向く」は積極的に臨むという意味で、それ自体はプラスニュアンスである。但し、このプラスニュアンスも文脈でキャンセルされ得る。

⑤ 「傾向」は中立的である。

⑥ tend＋to不定詞 は中立的である。

⑦ 「傾く」は decline に相応する。「傾く」と decline には Down is Bad のメタファーが働いてマイナスニュアンスになることが多い。しかし、More is Up; Less is Down のメタファーは関与しているが Down is Bad は関わっていない場合もある。

⑧ tend＋to 不定詞の特徴として次の 3 点が挙げられる。

a) Unsettled is Up のメタファーが連想される。

b) 傾向の判断の根拠として事例の集積が必要である。

c）未断定表現になるため、婉曲表現として用いられることがある。

参考文献

市川繁次郎編集代表（1995）『新編英和活用大辞典』第２版 研究社
河上道生監修（1992）『英語類語用法辞典』大修館
金田一京助（1994）『新明解国語辞典』第４版　三省堂
小稲義男編集代表（1980）『新英和大辞典』第５版　研究社
小西友七編集主幹（1994）『ジーニアス英和辞典』第２版　大修館
小西友七・安井稔・国広哲弥編集主幹（1987）『プログレッシブ英和辞典』第２版　小学館
Lakoff, G. and M.Johnson (1980) *Metaphors We Live By* Chicago University Press
松村明監修（1995）『大辞泉』小学館
森田良行（1996）『意味分析の方法 ― 理論と実践』ひつじ書房
小川環樹・西田太一郎・赤塚忠（1968）『新字源』角川書店
Spears, R. A. ed. (1998) *NTC's American English Learners' Dictionary* Macmillan Languagehouse
Summers, D. ed. (1992) *Dictionary of English Language and Culture* Longman
山梨正明（1988）『比喩と理解』東京大学出版会
山梨正明（1995）『認知意味論』ひつじ書房